

上野公悦議員一般質問
原発・教員不足で論戦に挑戦

(13番目) 3/18午後の予定

**1. 原発再稼働の是非を問う県民投票
条例の直接請求について**

- (1) 直接請求と住民投票の意義について、市長はどのように考えているか。
- (2) 2か月間という短期間で、上越市では1万4,700筆以上、新潟県全体では15万筆以上の署名が集まった。この市民県民の思いをどう受け止めているか。
- (3) 原発再稼働について、市民の安心安全の観点からどう思っているか。その思いを市民に発信できないか。

2. 教員不足の解消について

- (1) 教員不足や未配置、多忙化の状況をどう認識しているか。教育現場は限界を超えているとの認識はないか。
- (2) 教員の休職の状況はどうか。メンタルヘルスケアをどう行っているか。
- (3) 教員職の魅力発信や、余裕ある現場づくりが必要ではないか。また、国や県へ更に声を上げていくことが大事だと思うがどうか。

「しんぶん赤旗」日曜版は9日号と16日号が合併号です。来週は配達がありません。ご理解ください。

日本共産党上越市議員団ニュース

No.864 2025年3月9日

連 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
絡 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
先 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田(金谷区))
ホームページ <https://jcpjoetsugiindan.webnode.jp/>

「被ばくせずに避難できる予算にすべきでないか」など 橋爪議員が議案について質疑を展開

橋爪議員が行った3月議会初日の総括質疑の内容は次の通りです。

橋爪 原子力防災の取組の中の「実効性の高い避難体制」とは何か。またそのために何を重視して予算編成したのか。

市長 「実効性の高い避難体制」とは、住民の皆さんが、被ばくを避けるか又は低減を図りながら、安全かつ確実に避難することができるとして体制であると認識している。全面緊急事態においては、一人一人が適切に避難できることが肝要だ。また、豪雪時でも避難できるような除雪体制の確保や食料品等の物資の備蓄、放射性物質の付着検査や被ばく医療などが構築されていることが重要だ。来年度予算では、住民への啓発活動や、県の原子力防災訓練への参加などに加え、複合災害を想定した市総合防災訓練を実施するなど、住民の理解促進や国県との連携深化に注力した。

橋爪 被ばくしないで確実に避難できるように目標を置いた予算編成をすべきだと思ふがどうか。

市長 避難についてはこれからきちんと検証した上で、次に進んでいくべきと思う。避難訓練では、幾つもの課題が見つかったと思っている。

橋爪 どのような課題なのかを議会に示して議論できるようにしてほしい。

市長 担当と協議させてほしい。

橋爪 上越市合併20周年事業では、合併20年の到達点と課題をどう整理しているのか。

市長 まちづくりの到達点や課題の整理は予定していないが、記念事業でのパネル展示や市ホームページでの情報発信等を通じて合併の際の基本理念等を振り返る機会とした。

橋爪 例えば私の地元吉川では、かつて約30〜40億の予算で地域経済を回し商店街もある活気のある場所だったが、今はそれにほど遠い状態で空き家だらけだ。なぜか。きちんと地域計画を持って、対策を進めてこなかったことが大きい。記念事業をやるならそれも含めて整理をして、若者が希望と夢を持てるようなまちづくりの取り組みの第一歩になるような事業にすべきではないか。

市長 地域独自の予算の中で、皆さんがそ

の地区の課題と目指すべき未来を語って予算を生かしていただければと思っている。

橋爪 公立保育園の統合・再編では、通園が困難になること、地域での子育てという概念が希薄になることなどの問題点をどう解決するのか。

市長 自家用車による送迎が多いので、災害への安全性や交通アクセス等を十分に考慮して新保育園の建設候補地を選定している。また、通園バスの運行も検討する。地域とのつながりの点では、中学校区内での統合・再編を基本とし、地域で培ってきた伝統や特色のある行事等を継承し、積極的に地域との交流事業を行う。

橋爪 带状疱疹ワクチンの定期接種化では自己負担額や助成額が未定だが、この状態でのように予算を組んだのか。

市長 自己負担額・助成額は、県から具体的な金額が提示されていないため、標準的な接種費用のおおむね半額を助成額と見込んで所要額を積算し、予算案として取りまとめた。

橋爪 センター病院の改築では、基本設計に向けた準備の内容はどうか。また、前議会でも2年後に改築に着手すると言及したが、間違いないか。また、準備状況によつては来年度中に基本設計に入る可能性があるのか。

市長 令和7年度は、改築準備を進める期間であると捉え、まずは、病院の経営改善に取り組み。病院とともに検討を重ね、公立病院等の経営改善実績を有する専門家の助言・指導を得て、経営改善支援業務を実施する。病院改築の基本計画見直しに反映するには、少なくとも1年以上必要なので、令和7年度中に基本設計に着手する考えはない。

橋爪 2年というのは、市長の任期後だ。任期内に方針を示すためには、令和7年度予算で基本設計に入るスケジュールを示して、市民に説明をする必要があるのではないか。

市長 行政には継続性がある。年度が明けてから、今後のことについて考えていきたい。

橋爪 院内環境整備として行う空調設備の更新などで問題は解消されるのか。



市長 診療業務や職場環境に支障が生じる恐れがある箇所や、新たに早急な修繕が必要となった箇所を洗い出し、対応している。具体的には、中央廊下の防寒対策としての空調設備更新や建物の気密性を高める建具改修、老朽化したボイラー設備の修繕や、電子カルテの通信環境の増強などだ。また、突発的な修繕や備品の破損、消耗品の購入等に際し、一層柔軟に対応できるように、病院が一定の裁量をもつて執行できる予算を確保した。

橋爪 災害対策について、トイレカーはどんな視点で導入するのか。

市長 昨年12月の内閣府の避難所環境確保指針改訂を受けて、避難所の快適な生活環境を確保するために導入するものだ。今後、当市が被災した際には、全国の自治体や団体から支援が受けられると認識している。

橋爪 トイレカーでは、高齢者や障がい者が使えるかどうかも含めてもう一度検討すべきではないか。

市長 市内では小さい車でないと思えないところが多く、軽トラックにトイレを載せたものと考えており、合理的な選択だったと思う。

橋爪 国の「原子力災害対策事業費補助金」の活用で備蓄物資補強のみを選んだ理由は何か。また他事業は今後どうするのか。

市長 市内のUPZ圏内における指定避難所のうち、道路寸断による孤立の可能性がある避難所の特定ができたので、備蓄物資補強を提案した。もう一つの「放射線防護対策事業」は、現在、県主導で補助対象となり得る施設の抽出作業が進められているところなので予算計上には至らなかった。

橋爪 当該避難所は放射線防護避難所としての改築が求められている。決意はどうか。

部長 避難所としては、福祉施設や介護施設を放射能の防護措置施設の対象として整備したい。

